

第 73 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(令和 4 年 11 月調査)

～ 景況感は引き続き足踏み状態、先行きには警戒感 ～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が 4.2（前回調査比 3.9 ポイント上昇）と 2 期ぶりの改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」は 2 期ぶりの改善となったものの、「営業利益」と「資金繰り」は小幅ながら 3 期ぶりの悪化となった。「人員・人手」は 3 期連続でプラス幅が拡大した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲11.5（前回調査比 1.7 ポイント上昇）、製造業が 12.0（前回調査比 1.0 ポイント上昇）、卸・小売業が▲6.7（前回調査比 11.3 ポイント上昇）、サービス業が 21.2（前回調査比 2.1 ポイント上昇）と、すべての業種で改善となった。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲7.1（前回調査比 1.6 ポイント下落）、村山北部が 20.7（前回調査比 24.5 ポイント上昇）、最上が 5.3（前回調査比 9.0 ポイント下落）、置賜が 8.0（前回調査比 14.7 ポイント上昇）、庄内田川が 4.3（前回調査比 4.4 ポイント下落）、庄内飽海が 4.3（前回調査比 4.3 ポイント上昇）と、村山北部、置賜、庄内飽海で改善となった一方、村山南部、最上、庄内田川で悪化となり、村山北部と置賜では D I 値がプラスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲14.0（今回調査比 18.2 ポイント下落）と大幅に悪化の見込みとなっている。新型コロナウイルスの感染状況が業況に与える影響が縮小傾向にある一方で、コストの上昇による企業の負担増は進んでおり、景況マインドの持ち直しには停滞感がうかがえ、足踏み状態が続いている。また、ロシア、ウクライナをはじめ海外情勢が不安定な中、先行きへの警戒感は総じて強く、慎重な見通しが続く。

【特別調査】

- **冬季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 61.7%（前年比 2.4 ポイント上昇）と、2 年連続で上昇となった。

令和 4 年 12 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別 D I 値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	5
③	卸・小売業	7
④	サービス業	9
3.	地域別の動向	11
(1)	地域別の概況	11
(2)	地域別 D I 値の動向	12
①	村山南部	12
②	村山北部	13
③	最 上	14
④	置 賜	15
⑤	庄内田川	16
⑥	庄内飽海	17
II.	景気の天気予報図	18
III.	特別調査	19
1.	冬季ボーナスについて	19
(1)	支給予定動向	19
(2)	支給予定額	21
	<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>	23
	<参考資料 II : 調査の概要>	23

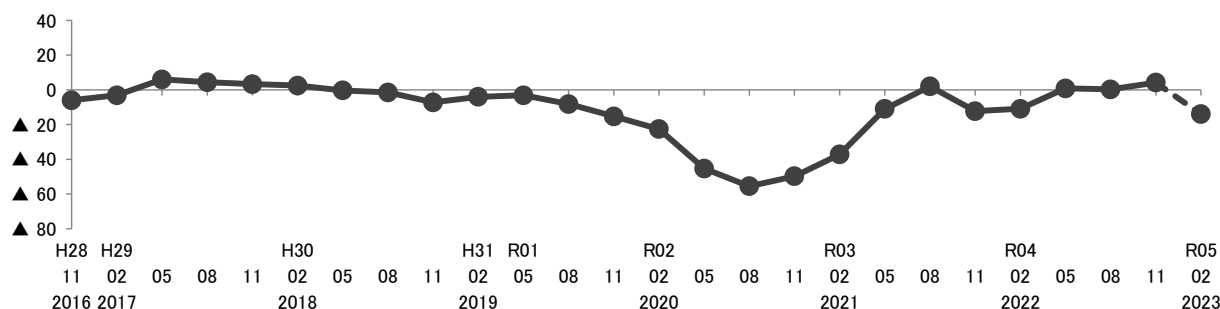
I. 県内企業の業況

1. 概況

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が4.2（前回調査比3.9ポイント上昇）と2期ぶりの改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」は2期ぶりの改善となったものの、「営業利益」と「資金繰り」は小幅ながら3期ぶりの悪化となった。「人員・人手」は3期連続でプラス幅が拡大した。

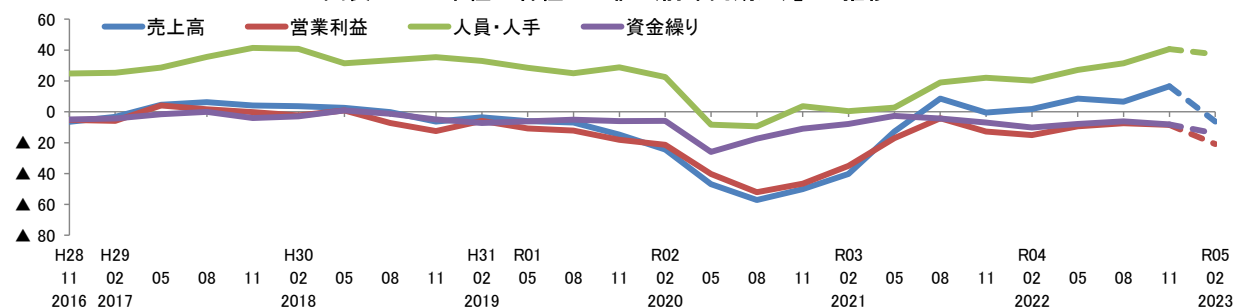
先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲14.0（今回調査比18.2ポイント下落）と大幅に悪化の見込みとなっている。新型コロナウイルスの感染状況が業況に与える影響が縮小傾向にある一方で、コストの上昇による企業の負担増は進んでおり、景況マインドの持ち直しには停滞感がうかがえ、足踏み状態が続いている。また、ロシア、ウクライナをはじめ海外情勢が不安定な中、先行きへの警戒感は総じて強く、慎重な見通しが続く。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 2 全業種「各種DI値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 03. 11 (n=398)	▲ 12.3	(▲ 14.3)	▲ 15.5	▲ 0.5	▲ 12.8	22.1	▲ 7.0
R 04. 02 (n=384)	▲ 10.9	(1.4)	▲ 9.1	1.8	▲ 15.1	20.3	▲ 10.2
R 04. 05 (n=406)	0.8	(11.7)	▲ 28.9	8.6	▲ 9.4	27.1	▲ 7.9
R 04. 08 (n=390)	0.3	(▲ 0.5)	▲ 10.6	6.6	▲ 7.4	31.5	▲ 6.1
R 04. 11 (n=379)	4.2	(3.9)	▲ 14.1	16.6	▲ 8.5	40.7	▲ 8.2
前回調査比	-	-	-	(10.0)	(▲ 1.1)	(9.2)	(▲ 2.1)
先行き見通し	▲ 14.0	-	-	▲ 6.4	▲ 20.9	37.2	▲ 14.0
今回調査比	(▲ 18.2)	-	-	(▲ 23.0)	(▲ 12.4)	(▲ 3.5)	(▲ 5.8)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

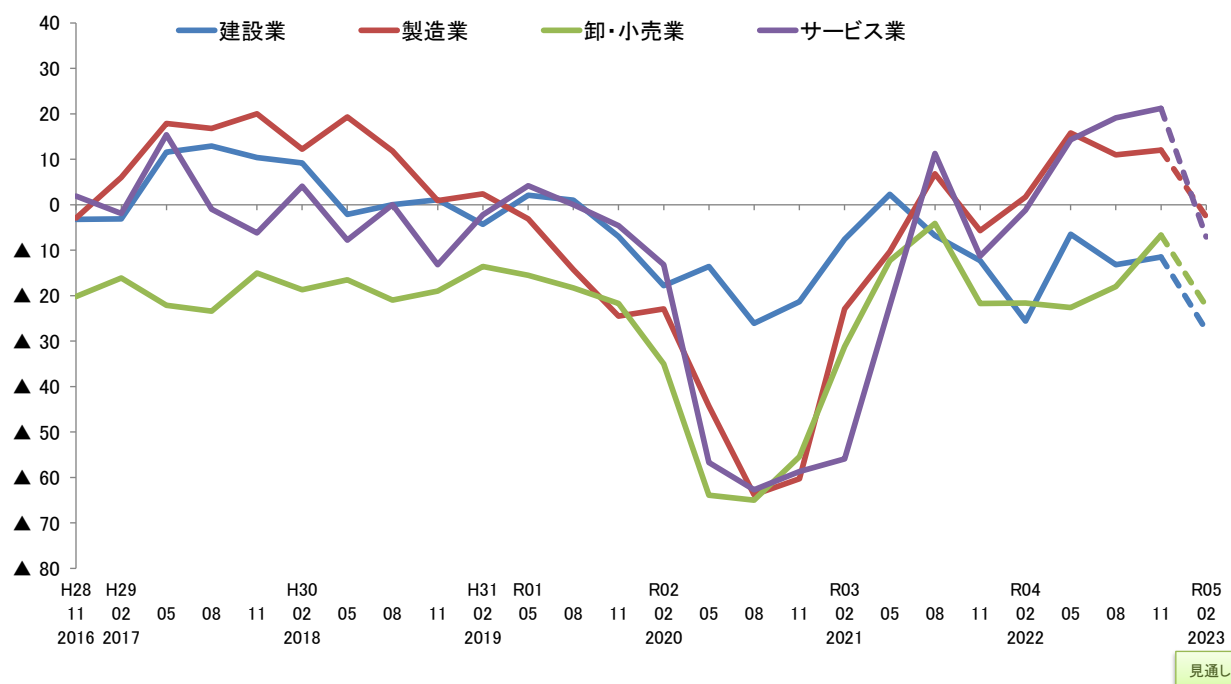
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲11.5（前回調査比 1.7 ポイント上昇）、製造業が 12.0（前回調査比 1.0 ポイント上昇）、卸・小売業が▲6.7（前回調査比 11.3 ポイント上昇）、サービス業が 21.2（前回調査比 2.1 ポイント上昇）と、すべての業種で改善となった。

業況の先行き見通しは、すべての業種で大幅に悪化の見込みとなっている。

図表 3 業種別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

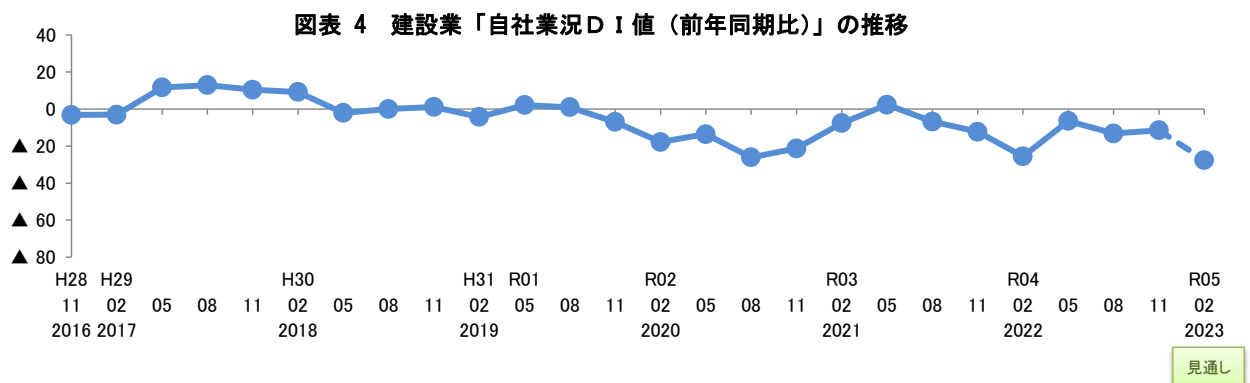
業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 11 (n=398)	▲ 12.3	▲ 12.3	▲ 5.7	▲ 21.7	▲ 11.3
R 04. 02 (n=384)	▲ 10.9	▲ 25.6	1.7	▲ 21.6	▲ 1.2
R 04. 05 (n=406)	0.8	▲ 6.5	15.8	▲ 22.6	14.3
R 04. 08 (n=390)	0.3	▲ 13.2	11.0	▲ 18.0	19.1
R 04. 11 (n=379)	4.2	▲ 11.5	12.0	▲ 6.7	21.2
前回調査比	(3.9)	(1.7)	(1.0)	(11.3)	(2.1)
先行き見通し	▲ 14.0	▲ 27.6	▲ 2.6	▲ 22.3	▲ 7.1
今回調査比	(▲ 18.2)	(▲ 16.1)	(▲ 14.6)	(▲ 15.6)	(▲ 28.3)

(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲11.5（前回調査比 1.7 ポイント上昇）と、2 期ぶりの改善となっている。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」と「手持工事高」は改善、「営業利益」と「資金繰り」は悪化した。「人員・人手」は 2 期ぶりにプラス幅が拡大した。各社のコメントから、資材価格の高騰等が経営を圧迫しており、総じて厳しい収益環境にあることがうかがえる。加えて、新型コロナウイルスの感染再拡大によって、建築資材の入荷遅延や作業員不足が発生しており、工期の遅れにもつながっているなどの内容が複数みられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲27.6（今回調査比 16.1 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。



業界の声

Q. 今期の業況について

- 新型コロナウイルスの感染者が増加しており、現場へ影響が出ている。人手不足に加え、感染者、濃厚接触者の自宅待機で現場を止めなければならない事態が発生している。(村山南)
- 資材等の価格上昇により収益環境はとても厳しい。受注競争をすれば工事価格が下がり、資材等の値上がりで受注できない。(村山南)
- 材料や外注等の高騰により、利益の確保が大変になってきた。現在はやや落ち着いているものの、前年よりはかなり厳しい。(村山北)
- 電力費、燃料費の高騰と資材不足の状況が続いており、経営圧迫と工期の遅れにつながっている。(最上)
- 燃料・資材類が高騰しており、企業の建設設備投資や個人の新築住宅が非常に減少していると感じる。(置賜)
- 鋼材・ガソリン等の値上がりが収まらず、経費の増加が著しい。(庄内田川)
- 依然として材料価格の引上げ通知が届いており、業界全体が厳しい収益環境にある。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

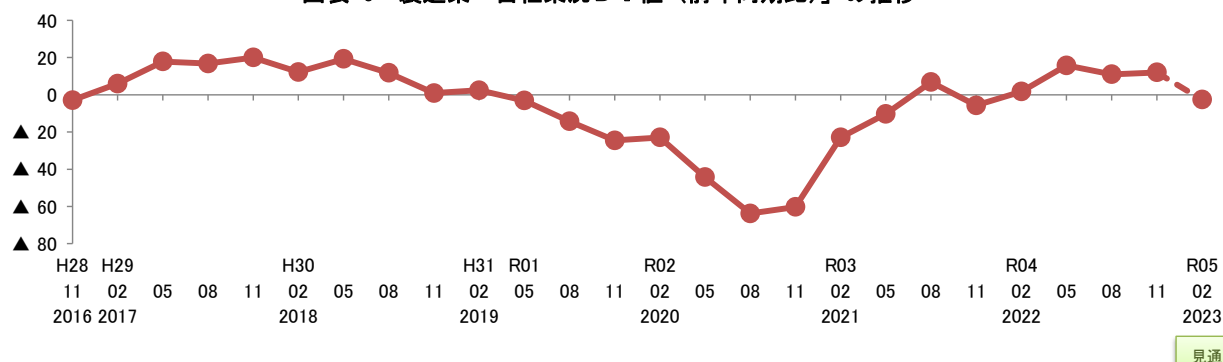
- 完工と受注については若干の減少だが、利益については厳しい状況が続く見込みとなっている。(村山南)
- 諸物価の値上がりがある一方で、圧送工事単価の値上げが難しく、減収が予想される。(村山南)
- 冬期間に講習等の受講を通して個々のスキルアップに努め、人材の採用などに力を入れたい。(村山北)
- 今期に比べると、来期は公共工事の発注が増える見通しである。(最上)
- 特に民間住宅において、建設単価の上昇により手控える顧客が増加し、見通しはあまりよくない。(置賜)
- 人員確保が難しく、だんだんと厳しくなると思われる。(庄内田川)
- 新規の設備投資として3次元のMCを導入し、受注確保に取り組む。(庄内飽海)

② 製造業

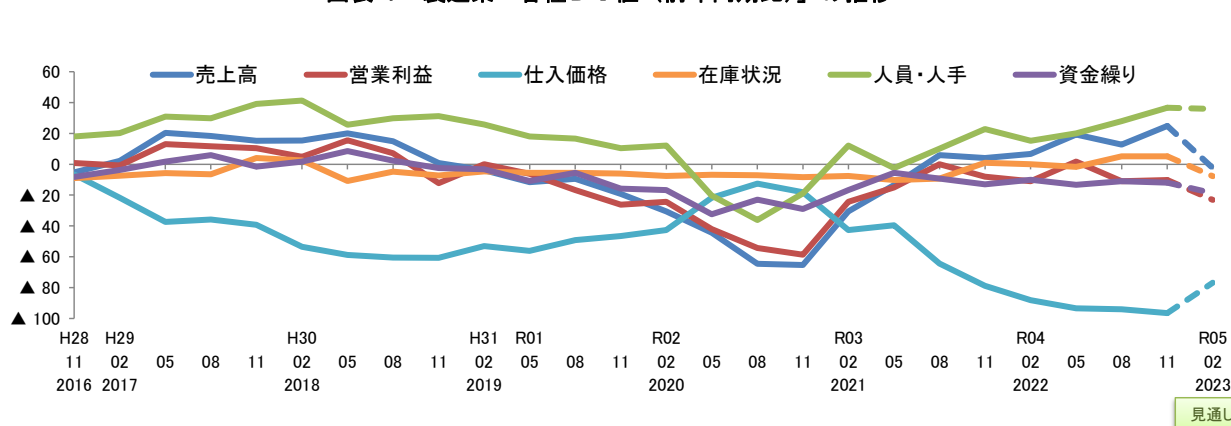
「自社の業況DI値（前年同期比）」は12.0（前回調査比1.0ポイント上昇）と2期ぶりの改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「在庫状況」はほぼ横ばい、「売上高」と「営業利益」は改善、「仕入価格」と「資金繰り」は悪化となった。「人員・人手」は3期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントから、燃料費、電気料金、原材料費等の価格高騰によるコストの増加が引き続き大きな負担となっている状況がうかがえる。円安の影響を受けて、一部輸出が好調な業種もみられるものの、輸入原料を取り扱う多くの企業において先行きを警戒する動きが強い。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲2.6（今回調査比14.6ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 7 製造業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 03. 11 (n=123)	▲ 5.7 (▲ 12.5)	▲ 4.3		4.1	▲ 8.1	▲ 78.9	0.9	22.8	▲ 13.0
R 04. 02 (n=118)	1.7 (7.4)	0.8		6.7	▲ 11.0	▲ 88.2	0.0	15.3	▲ 10.1
R 04. 05 (n=120)	15.8 (14.1)	▲ 17.8		19.2	1.7	▲ 93.4	▲ 1.7	20.0	▲ 13.3
R 04. 08 (n=118)	11.0 (▲ 4.8)	▲ 5.9		12.7	▲ 11.0	▲ 94.1	5.1	28.0	▲ 11.0
R 04. 11 (n=117)	12.0 (1.0)	▲ 10.2		24.8	▲ 10.2	▲ 96.6	5.2	36.7	▲ 12.0
前回調査比	-	-		(12.1)	(0.8)	(▲ 2.5)	(0.1)	(8.7)	(▲ 1.0)
先行き見通し	▲ 2.6	-		▲ 2.5	▲ 23.1	▲ 76.9	▲ 7.7	35.9	▲ 18.8
今回調査比	(▲ 14.6)	-		(▲ 27.3)	(▲ 12.9)	(19.7)	(▲ 12.9)	(▲ 0.8)	(▲ 6.8)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 急速なアルミニウム原材料の値上がり、燃料価格の高騰に見舞われ、コスト負担が増大している。(村山南)
- 半導体業界は品目(用途)にもよるが、需要のピークアウトの兆候が見られ、反動減に警戒している状況にある。(村山北)
- 売上は伸びているが、それを上回る原材料等費用の増加で経営状況は昨年より悪化している。価格改定も行っているが、費用が継続して上昇しているため、追いついていない。(村山北)
- 為替レートが円安のために原材料や加工料が高くなっている。国内はいまいちだが、一方でそのために輸出の受注が増えている。(置賜)
- 半導体不足が依然解消せず、客先からの受注が伸び悩んでいる。急な減産も多い。(庄内田川)
- ウクライナ情勢の影響を受けた石炭の高騰により、セメント価格が大幅に上昇した。今後、収支面で影響が出る可能性がある。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

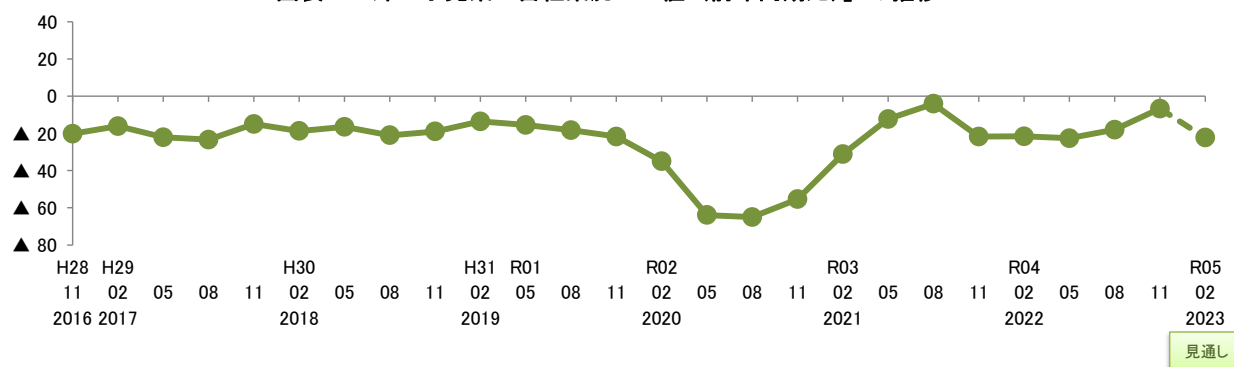
- 今期は電力・燃料・材料価格の上昇により悪化している。来期に向けては適切な転嫁が必要と考えている。(村山南)
- すべてにおいてコスト高の影響が消えず、コロナの状況も含め不透明感が増す。(村山北)
- 半導体製造装置事業の受注状況は往時の勢いがなくなっており、「部材調達の長納期化=お客さまへの提示納期も長い」という要因も相まって、今後の苦戦が予想される。(村山北)
- 難入品入手が一番の課題である。原材料費、電気代等もさらに値上げの傾向にあり、損益に影響を及ぼすことが予想される。(最上)
- 労働力の確保、またそれを補うための設備投資による製造能力の増強、保有資産の有効活用や事業承継の準備を行う。(置賜)
- 電子化と業務の効率化を検討するため、各種展示会等で情報収集をしている。(庄内田川)
- 新型コロナによる設備投資減、ウクライナ情勢及び為替相場等による物価上昇から先々の見通しが悪い。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

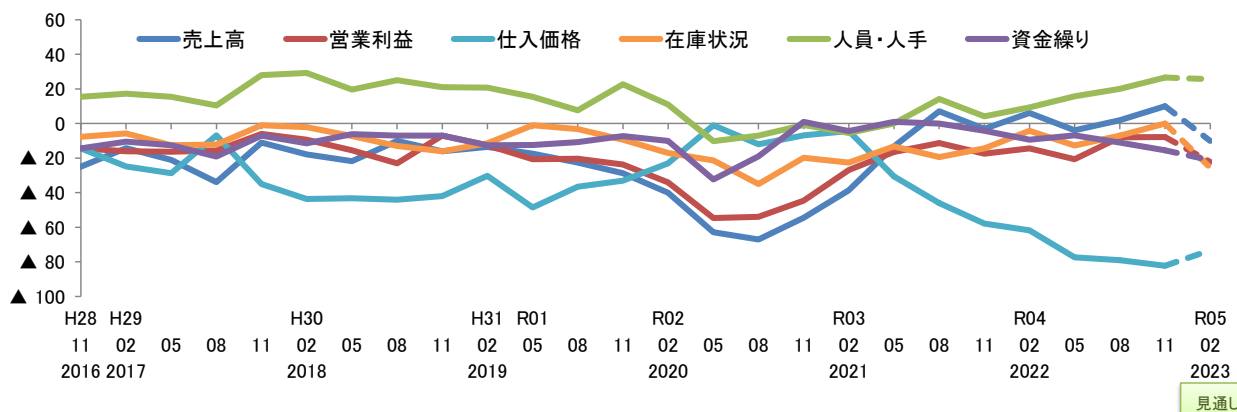
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲6.7（前回調査比 11.3 ポイント上昇）と 2 期連続の改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「営業利益」はほぼ横ばい、「売上高」と「在庫状況」は改善、「仕入価格」と「資金繰り」は悪化となった。「人員・人手」は 4 期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントによると、一部食品関連などで客足や売り上げに回復の動きがみられるようになってきたものの、各種商品の値上げが進むことによる買い控えが懸念されており、消費者の購買動向の低下が不安視されている。また、仕入れコストの上昇や入荷遅れなども依然続いており、今後の見通しも厳しいとする内容が複数見受けられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲22.3（今回調査比 15.6 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 03.11 (n=97)	▲ 21.7	(▲ 17.6)	▲ 20.4	▲ 3.1	▲ 17.5	▲ 57.8	▲ 14.4	4.1	▲ 4.2
R 04.02 (n=97)	▲ 21.6	(0.1)	▲ 12.4	6.1	▲ 14.4	▲ 61.8	▲ 4.2	9.3	▲ 9.3
R 04.05 (n=102)	▲ 22.6	(▲ 1.0)	▲ 33.0	▲ 3.9	▲ 20.6	▲ 77.4	▲ 12.7	15.7	▲ 6.8
R 04.08 (n=100)	▲ 18.0	(4.6)	▲ 17.7	2.0	▲ 8.0	▲ 79.0	▲ 7.0	20.0	▲ 11.0
R 04.11 (n=90)	▲ 6.7	(11.3)	▲ 20.0	10.0	▲ 7.8	▲ 82.2	0.0	26.6	▲ 15.5
前回調査比	-	-	-	(8.0)	(0.2)	(▲ 3.2)	(7.0)	(6.6)	(▲ 4.5)
先行き見通し	▲ 22.3	-	-	▲ 10.0	▲ 22.2	▲ 73.3	▲ 25.5	25.6	▲ 21.2
今回調査比	(▲ 15.6)	-	-	(▲ 20.0)	(▲ 14.4)	(8.9)	(▲ 25.5)	(▲ 1.0)	(▲ 5.7)

Q. 今期の業況について

業界の声

- コロナ、ウクライナ情勢の影響により原料の高騰や入荷の状況が悪く、買い控えの状態で荷動きも悪い。(村山南)
- あらゆる物が値上げになっており、消費者は低価格指向になっているように感じる。飼料高騰で相場が伴わない状況は、業界にとってはかなり厳しい。(村山北)
- 円高により仕入（輸入）価格が順次上がり、値上げをしても追いつかない。利益が圧迫されてしまう。(最上)
- メーカーの仕入価格がますます上がり、燃料価格も高騰している。新型コロナウイルス感染者が増えている中でも徐々にイベントなどは増えているようだが、買え控えなどで客単価は下がっている。(置賜)
- 都市ガスの原料（LNG）価格上昇につき、ガスの販売価格も上昇している。(庄内田川)
- 円安、エネルギー高騰の影響で仕入値が上がっている。アパレルの客数は回復傾向にあるが、雑貨の客数の回復は遅れている。(庄内飽海)

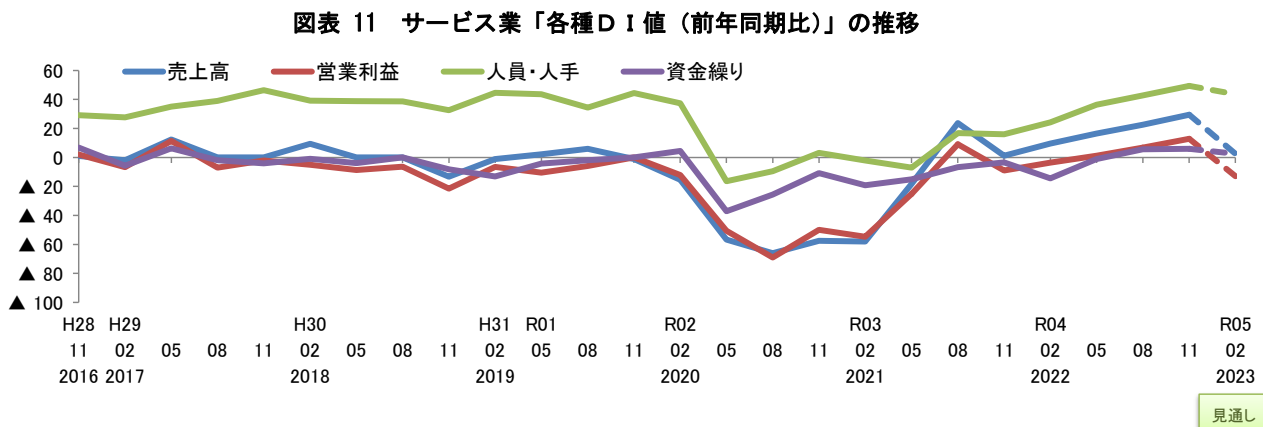
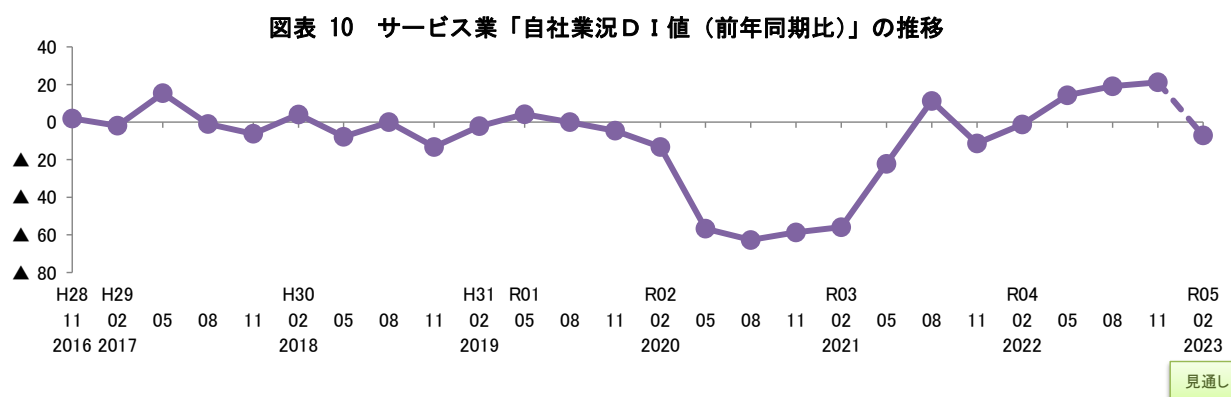
Q. 来期の見通しや対策等について

- 営業部門では新規得意先の開拓を行い、弊社が取り扱っている商品に付加価値をつけた営業戦略を見出す。また、管理部門では販売管理費の見直しをする。(村山南)
- 電気代削減に向け太陽光などさまざまな策を検討する。併せて、デジタル化・ペーパーレス化などによる事務の効率化に取り組む。(村山北)
- 値上げ幅が大きく、消費力が低迷しており、見通しが悪い。(最上)
- 生産能力の増強に合わせ、商品補完能力の倍増を見込んでいる。在庫を増やすのは、企業経営ではあまり喜ばしいものではないが、商品の性格上、販売チャンスを見逃さないためには現在以上の在庫は必須である。(置賜)
- 来期は燃料業界にとっては需要期に入るので、石油製品等の仕入価格のさらなる高騰を心配している。(庄内田川)
- 今期までは何とか現状維持できたが、来期は物価上昇などの影響で大変厳しくなると思われる。(庄内飽海)

④ サービス業

「自社の業況DI値（前年同期比）」は21.2（前回調査比2.1ポイント上昇）と4期連続で改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「資金繰り」はほぼ横ばい、「売上高」と「営業利益」は改善となった。「人員・人手」は4期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントによると、宿泊業では水際対策緩和による外国人観光客の受け入れ再開や全国旅行支援の実施が来客数増加の後押しとなっており、業況に改善傾向がみられる。しかし、水道光熱費や原材料費の高騰、人手不足感の高まりなどは深刻な状況にあり、総じて先行きに対する姿勢は慎重なものとなっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲7.1（今回調査比28.3ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
R 03.11 (n=88)	▲ 11.3	(▲ 22.6)	▲ 16.9	1.2	▲ 9.1	15.9	▲ 3.4
R 04.02 (n=83)	▲ 1.2	(10.1)	▲ 4.6	9.6	▲ 3.6	24.1	▲ 14.5
R 04.05 (n=91)	14.3	(15.5)	▲ 26.6	16.5	1.1	36.3	▲ 1.1
R 04.08 (n=89)	19.1	(4.8)	7.7	22.5	6.8	42.7	5.6
R 04.11 (n=85)	21.2	(2.1)	▲ 4.5	29.5	12.9	49.4	5.9
前回調査比	-	-	-	(7.0)	(6.1)	(6.7)	(0.3)
先行き見通し	▲ 7.1	-	-	2.4	▲ 13.0	43.5	2.4
今回調査比	(▲ 28.3)	-	-	(▲ 27.1)	(▲ 25.9)	(▲ 5.9)	(▲ 3.5)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 全国旅行支援など国や自治体の後押しがあり、状況は改善している。(村山南)
- 新型コロナウイルス感染症による交通、観光に対するダメージは回復傾向をみせているものの、ウクライナへの軍事進攻による物価高で経費が増加し、収益を圧迫している。(村山北)
- 原材料の値上がりが続いている。木材、建材だけでなくガソリン代や金属、ガラス関係の値上がりが尋常ではなく、厳しい状況である。(最上)
- 物価上昇が日ごとに増すなかで、仕入れが困窮している。(置賜)
- 全国旅行支援でお客さまは来ているが、多くの施設で人手不足のため、十分な恩恵を得ることができていない。特に調理部門や裏方のパート人材がかなり厳しい。(庄内田川)
- 宿泊は「全国旅行支援」により追い風になっている。宴会は、まだコロナの感染高止まりで動きが鈍い。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- 来期については、政府による観光需要喚起策や、半導体不足の緩和等もあり、ある程度物量は回復すると思われるが、物価上昇やコロナ禍等によりマイナスの影響を受ける可能性もある。(村山南)
- 価格競争から、技術力や信用により評価される動きが始まってきている。技術者の定年や高齢化が深刻であり、若手育成や人員確保に力を入れている。(村山北)
- 円安で業況に陰りが出てくるものと推測される。(置賜)
- 燃料・水道光熱費の高騰が収まらず高止まりしているため、業況は厳しく予測困難となっている。(庄内田川)
- WITH コロナにシフトチェンジしたため、インバウンドを含め仕事量は増え始めたが、今後の方向性として個人の旅行に変わっていくことが予想される。(庄内飽海)
- 人材の流動化と効率の良い営業体制の確立に取り組む。(庄内飽海)

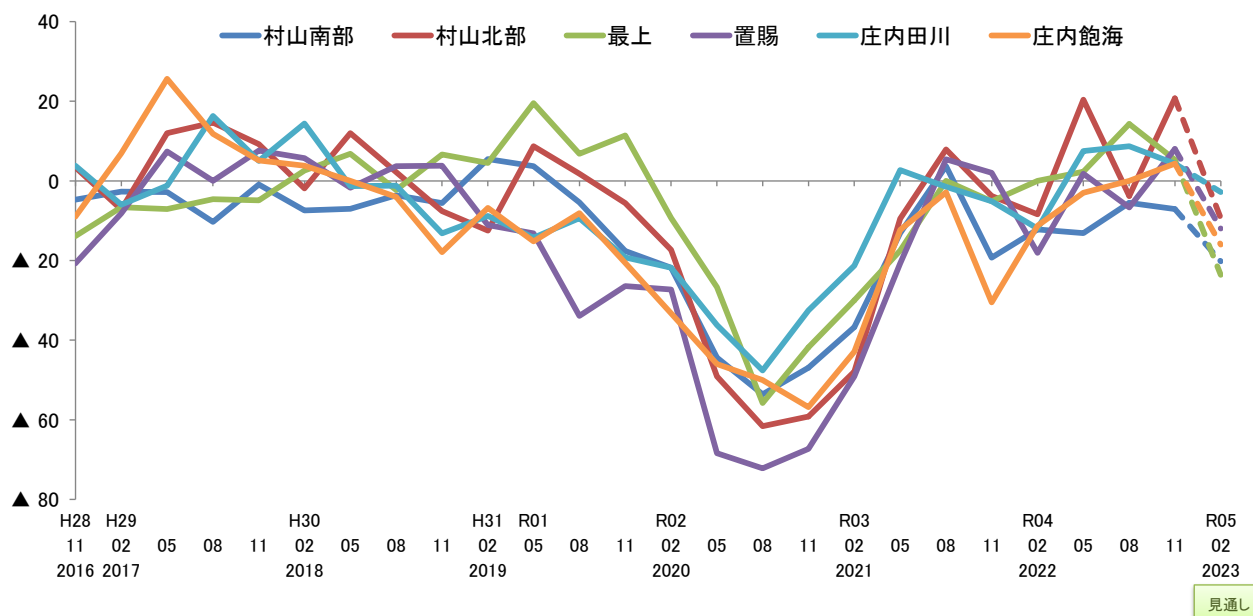
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲7.1（前回調査比 1.6 ポイント下落）、村山北部が 20.7（前回調査比 24.5 ポイント上昇）、最上が 5.3（前回調査比 9.0 ポイント下落）、置賜が 8.0（前回調査比 14.7 ポイント上昇）、庄内田川が 4.3（前回調査比 4.4 ポイント下落）、庄内飽海が 4.3（前回調査比 4.3 ポイント上昇）と、村山北部、置賜、庄内飽海で改善となった一方、村山南部、最上、庄内田川で悪化となり、村山北部と置賜では D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、すべての地域で悪化が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 03.11 (n=398)	▲ 12.3	▲ 19.3	▲ 3.8	▲ 5.1	2.0	▲ 5.1	▲ 30.5
R 04.02 (n=384)	▲ 10.9	▲ 12.2	▲ 8.4	0.0	▲ 18.1	▲ 12.0	▲ 11.3
R 04.05 (n=406)	0.8	▲ 13.1	20.4	2.3	1.8	7.5	▲ 3.0
R 04.08 (n=390)	0.3	▲ 5.5	▲ 3.8	14.3	▲ 6.7	8.7	0.0
R 04.11 (n=379)	4.2	▲ 7.1	20.7	5.3	8.0	4.3	4.3
前回調査比	(3.9)	(▲ 1.6)	(24.5)	(▲ 9.0)	(14.7)	(▲ 4.4)	(4.3)
先行き見通し	▲ 14.0	▲ 20.2	▲ 9.4	▲ 23.6	▲ 12.0	▲ 2.8	▲ 16.0
今回調査比	(▲ 18.2)	(▲ 13.1)	(▲ 30.1)	(▲ 28.9)	(▲ 20.0)	(▲ 7.1)	(▲ 20.3)

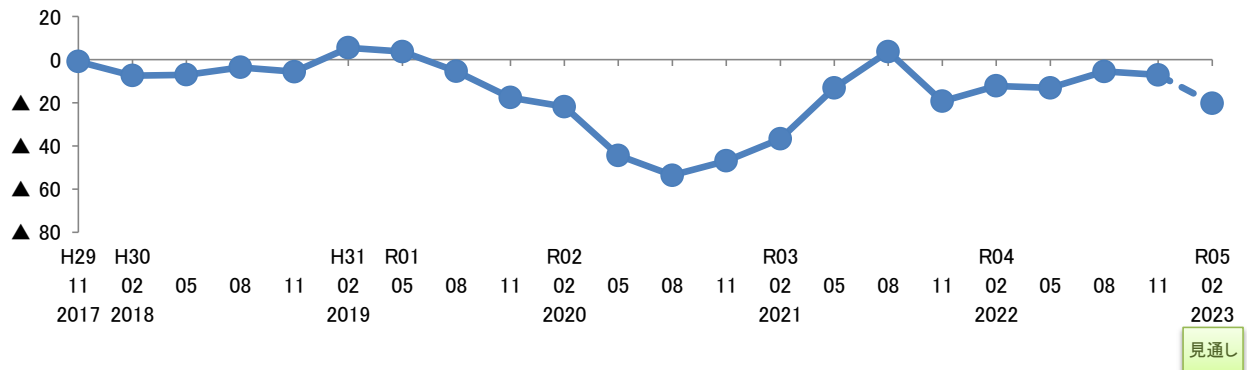
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

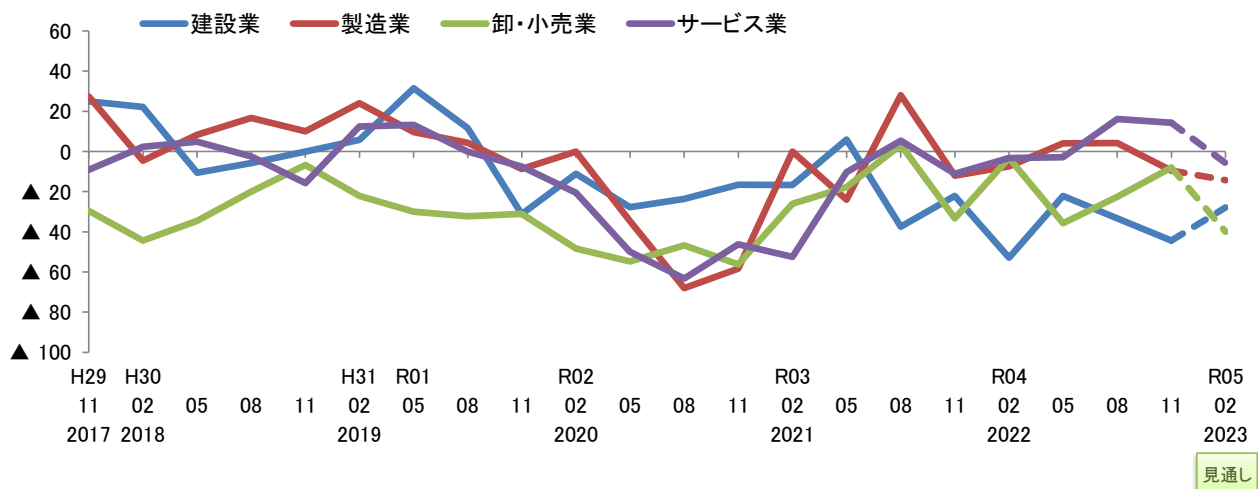
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲7.1（前回調査比 1.6 ポイント下落）と小幅ながら 2 期ぶりに悪化となった。業種別にみると、卸・小売業で改善、その他の 3 業種で悪化となっており、製造業は D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲20.2（今回調査比 13.1 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

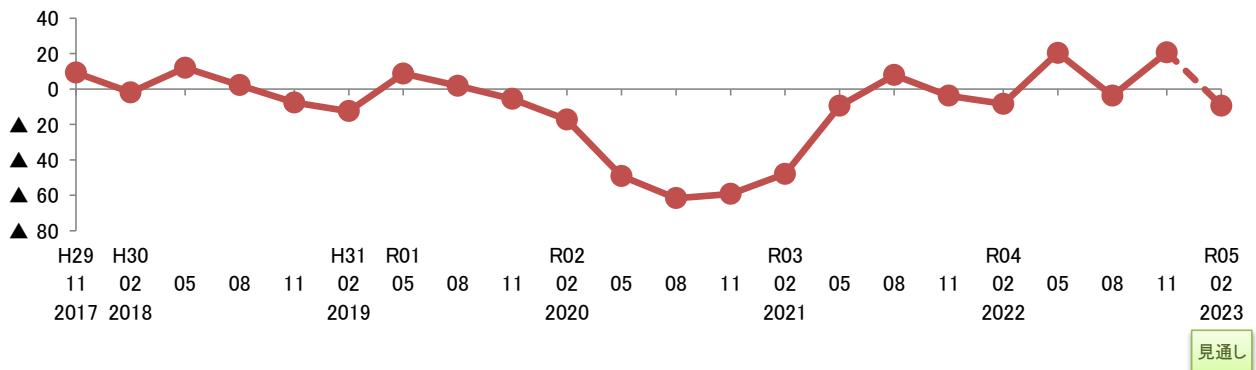
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 11 (n=109)	▲ 19.3	(▲ 23.0)	▲ 17.6	▲ 22.2	▲ 12.0	▲ 33.3	▲ 11.1
R 04. 02 (n=107)	▲ 12.2	(7.1)	▲ 18.3	▲ 52.9	▲ 7.4	▲ 3.3	▲ 3.2
R 04. 05 (n=107)	▲ 13.1	(▲ 0.9)	▲ 27.1	▲ 22.2	4.0	▲ 35.7	▲ 2.8
R 04. 08 (n=110)	▲ 5.5	(7.6)	▲ 19.7	▲ 33.3	4.2	▲ 22.5	16.2
R 04. 11 (n=99)	▲ 7.1	(▲ 1.6)	▲ 20.0	▲ 44.4	▲ 9.5	▲ 8.0	14.3
前回調査比	-	-	-	(▲ 11.1)	(▲ 13.7)	(14.5)	(▲ 1.9)
先行き見通し	▲ 20.2	-	-	▲ 27.8	▲ 14.3	▲ 40.0	▲ 5.8
今回調査比	(▲ 13.1)	-	-	(16.6)	(▲ 4.8)	(▲ 32.0)	(▲ 20.1)

② 村山北部

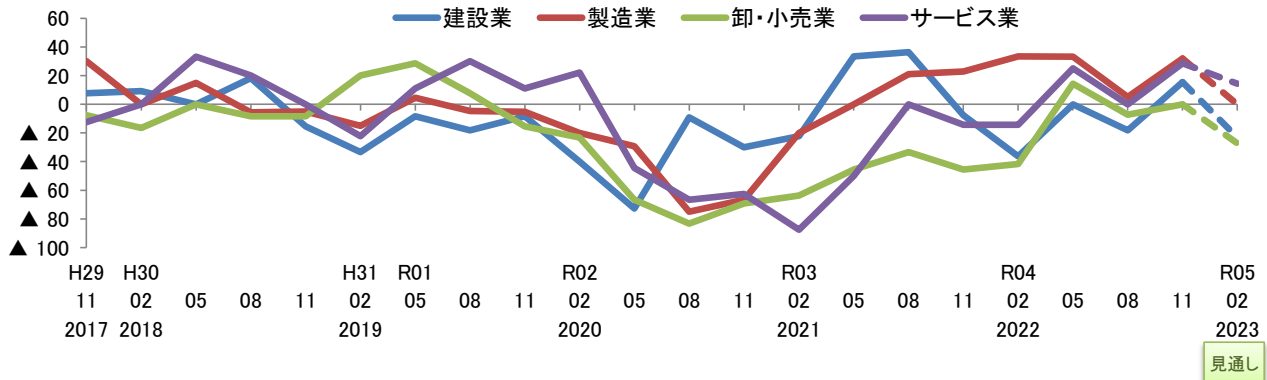
「自社の業況DI値（前年同期比）」は 20.7（前回調査比 24.5 ポイント上昇）と前期の後退から大幅に改善し、一進一退の動きとなっており、再びプラスに転じた。業種別にみると、すべての業種で改善となっており、建設業はDI値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲9.4（今回調査比 30.1 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

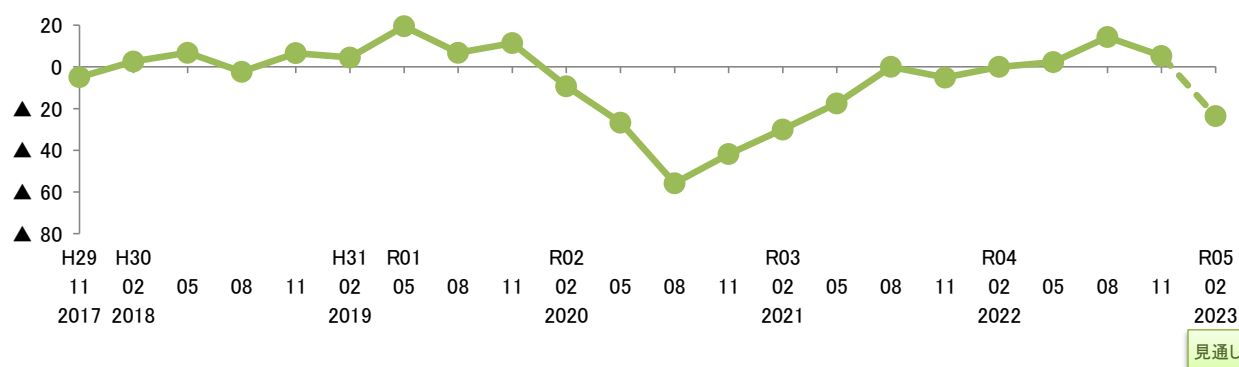
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 11 (n=53)	▲ 3.8	(▲ 11.7)	▲ 9.8	▲ 7.7	22.8	▲ 45.5	▲ 14.3
R 04. 02 (n=48)	▲ 8.4	(▲ 4.6)	3.8	▲ 36.4	33.4	▲ 41.7	▲ 14.3
R 04. 05 (n=54)	20.4	(28.8)	▲ 22.9	0.0	33.3	14.3	25.0
R 04. 08 (n=53)	▲ 3.8	(▲ 24.2)	11.1	▲ 18.2	5.2	▲ 7.2	0.0
R 04. 11 (n=53)	20.7	(24.5)	▲ 11.4	15.4	31.9	0.0	28.5
前回調査比	-	-	-	(33.6)	(26.7)	(7.2)	(28.5)
先行き見通し	▲ 9.4	-	-	▲ 23.1	0.0	▲ 27.3	14.3
今回調査比	(▲ 30.1)	-	-	(▲ 38.5)	(▲ 31.9)	(▲ 27.3)	(▲ 14.2)

③ 最 上

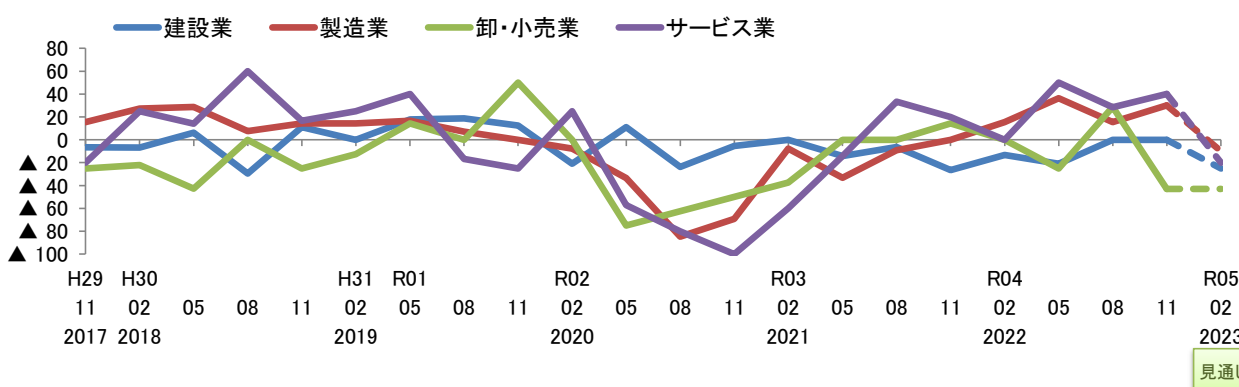
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 5.3（前回調査比 9.0 ポイント下落）と 4 期ぶりに悪化した。業種別にみると、建設業は横ばい、製造業とサービス業で改善、卸・小売業で大幅な悪化となった。卸・小売業は再び D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲23.6（今回調査比 28.9 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 17 最上「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

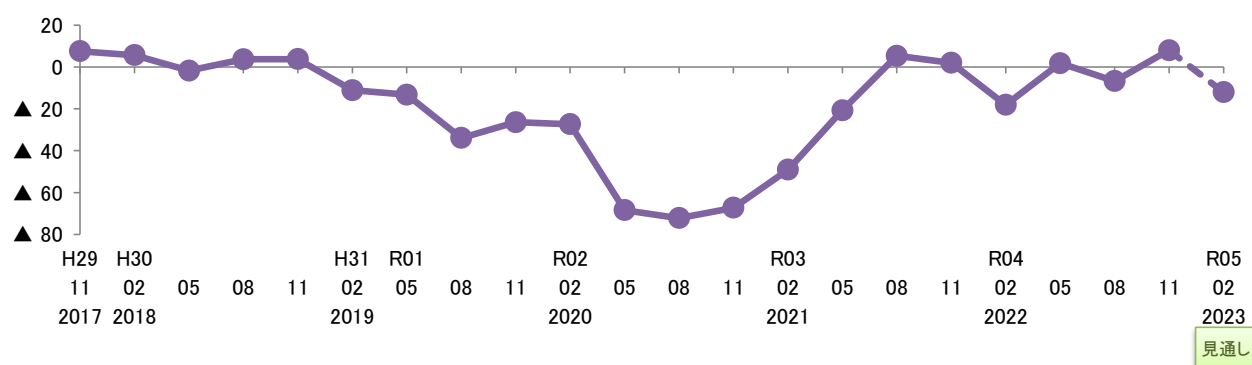
最 上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 03. 11 (n=39)	▲ 5.1	(▲ 5.1)	▲ 14.6	▲ 26.6	0.0	14.3	20.0
R 04. 02 (n=39)	0.0	(5.1)	▲ 7.7	▲ 13.3	15.4	0.0	0.0
R 04. 05 (n=44)	2.3	(2.3)	▲ 15.4	▲ 21.0	36.4	▲ 25.0	50.0
R 04. 08 (n=42)	14.3	(12.0)	▲ 6.8	0.0	15.4	28.6	28.5
R 04. 11 (n=38)	5.3	(▲ 9.0)	▲ 7.2	0.0	30.0	▲ 42.9	40.0
前回調査比	-	-	-	(0.0)	(14.6)	(▲ 71.5)	(11.5)
先行き見通し	▲ 23.6	-	-	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 42.9	▲ 20.0
今回調査比	(▲ 28.9)	-	-	(▲ 25.0)	(▲ 40.0)	(0.0)	(▲ 60.0)

④ 置 賜

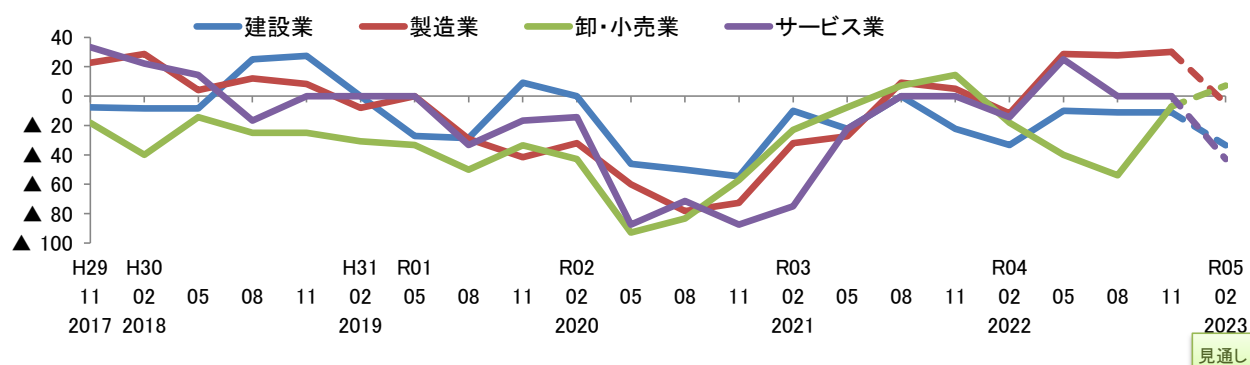
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 8.0（前回調査比 14.7 ポイント上昇）と前期の後退から改善の動きとなっており、再びプラスに転じた。業種別にみると、建設業とサービス業は横ばい、製造業と卸・小売業で改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲12.0（今回調査比 20.0 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

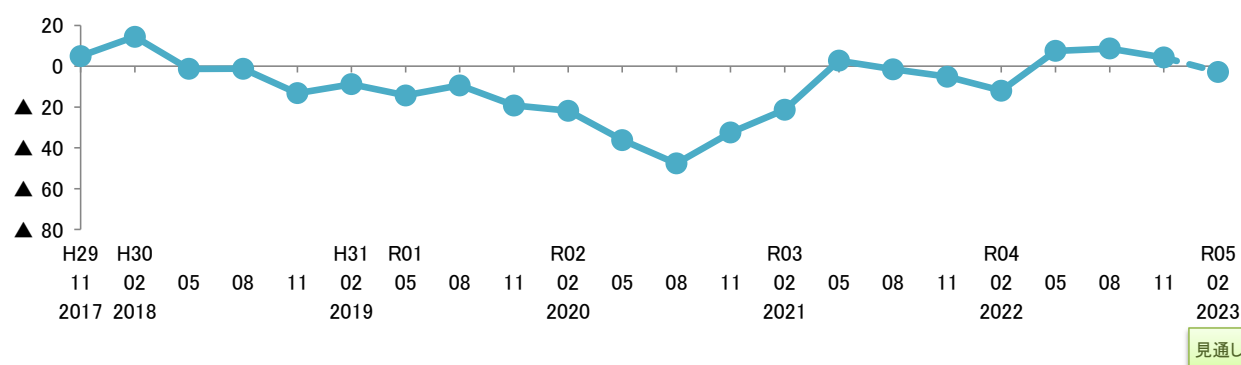
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 03. 11 (n=49)	2.0	(▲ 3.4)	▲ 17.9	▲ 22.2	5.0	14.3	0.0
R 04. 02 (n=44)	▲ 18.1	(▲ 20.1)	▲ 24.5	▲ 33.3	▲ 11.8	▲ 18.2	▲ 14.3
R 04. 05 (n=54)	1.8	(19.9)	▲ 43.1	▲ 10.0	28.6	▲ 40.0	25.0
R 04. 08 (n=45)	▲ 6.7	(▲ 8.5)	▲ 25.9	▲ 11.1	27.8	▲ 53.8	0.0
R 04. 11 (n=50)	8.0	(14.7)	▲ 13.3	▲ 11.1	30.0	▲ 7.2	0.0
前回調査比	-	-	-	(0.0)	(2.2)	(46.6)	(0.0)
先行き見通し	▲ 12.0	-	-	▲ 33.4	▲ 5.0	7.2	▲ 42.9
今回調査比	(▲ 20.0)	-	-	(▲ 22.3)	(▲ 35.0)	(14.4)	(▲ 42.9)

⑤ 庄内田川

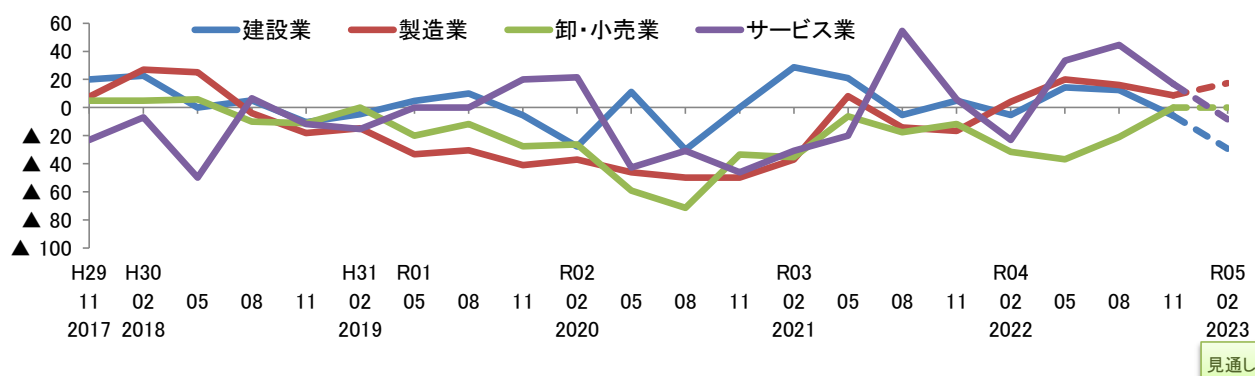
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 4.3（前回調査比 4.4 ポイント下落）と 3 期ぶりの悪化となった。業種別にみると、卸・小売業で改善となった一方、その他の 3 業種で悪化となり、建設業は D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲2.8（今回調査 7.1 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 21 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

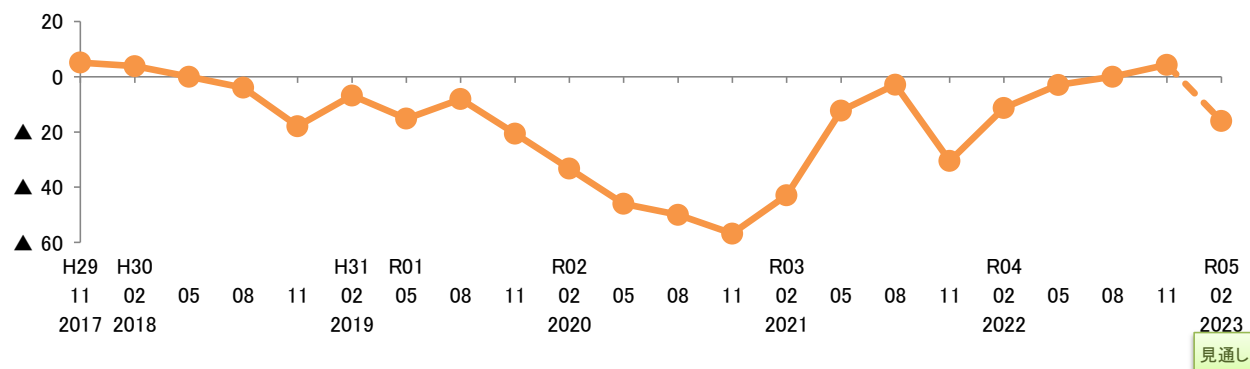
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 11 (n=79)	▲ 5. 1	(▲ 3. 6)	▲ 10. 3	4. 8	▲ 16. 7	▲ 11. 8	5. 9
R 04. 02 (n=75)	▲ 12. 0	(▲ 6. 9)	3. 8	▲ 5. 3	4. 1	▲ 31. 6	▲ 23. 1
R 04. 05 (n=80)	7. 5	(19. 5)	▲ 40. 0	14. 3	20. 0	▲ 36. 8	33. 3
R 04. 08 (n=69)	8. 7	(1. 2)	0. 0	12. 5	16. 0	▲ 21. 0	44. 5
R 04. 11 (n=70)	4. 3	(▲ 4. 4)	▲ 11. 6	▲ 5. 9	8. 7	0. 0	16. 7
前回調査比	-	-	-	(▲ 18. 4)	(▲ 7. 3)	(21. 0)	(▲ 27. 8)
先行き見通し	▲ 2. 8	-	-	▲ 29. 4	17. 4	0. 0	▲ 8. 4
今回調査比	(▲ 7. 1)	-	-	(▲ 23. 5)	(8. 7)	(0. 0)	(▲ 25. 1)

⑥ 庄内飽海

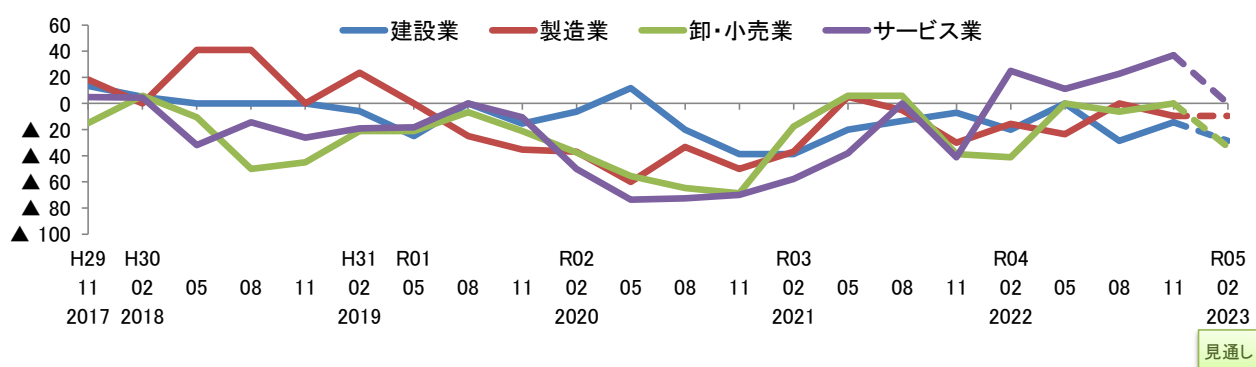
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 4.3（前回調査比 4.3 ポイント上昇）と 4 期連続の改善となった。
業種別にみると、製造業で悪化となり、その他の 3 業種で改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲16.0（今回調査比 20.3 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 11 (n=69)	▲ 30.5	(▲ 27.6)	▲ 20.3	▲ 7.1	▲ 30.0	▲ 38.8	▲ 41.1
R 04. 02 (n=71)	▲ 11.3	(19.2)	▲ 8.7	▲ 20.0	▲ 15.7	▲ 41.2	25.0
R 04. 05 (n=67)	▲ 3.0	(8.3)	▲ 22.5	0.0	▲ 23.5	0.0	11.1
R 04. 08 (n=71)	0.0	(3.0)	▲ 16.4	▲ 28.6	0.0	▲ 6.2	22.8
R 04. 11 (n=69)	4.3	(4.3)	▲ 14.1	▲ 14.3	▲ 9.5	0.0	36.9
前回調査比	-	-	-	(14.3)	(▲ 9.5)	(6.2)	(14.1)
先行き見通し	▲ 16.0	-	-	▲ 28.6	▲ 9.5	▲ 33.3	0.0
今回調査比	(▲ 20.3)	-	-	(▲ 14.3)	(0.0)	(▲ 33.3)	(▲ 36.9)

II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

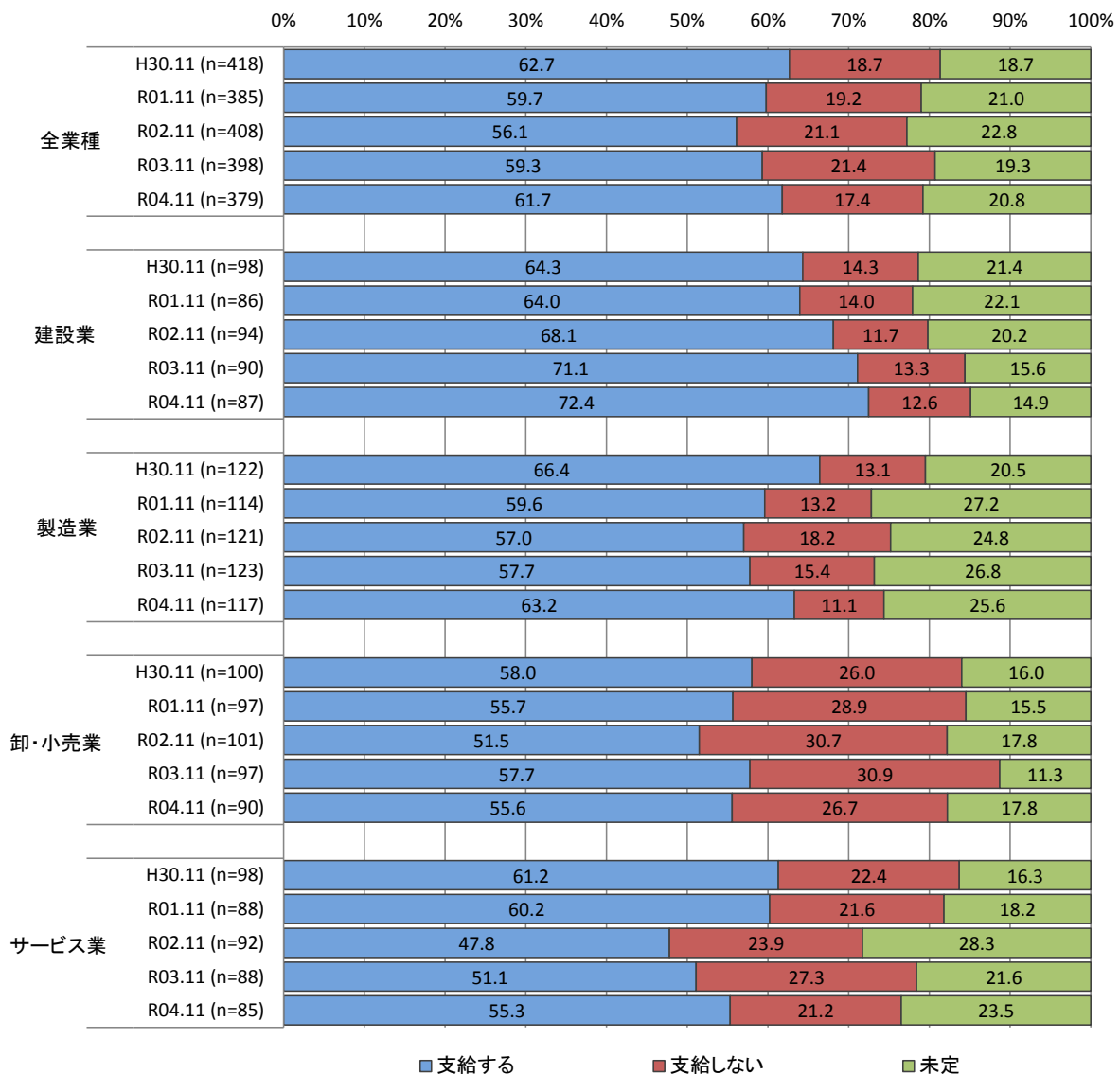
1. 冬季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 61.7%（前年比 2.4 ポイント上昇）と、2 年連続で上昇となった。

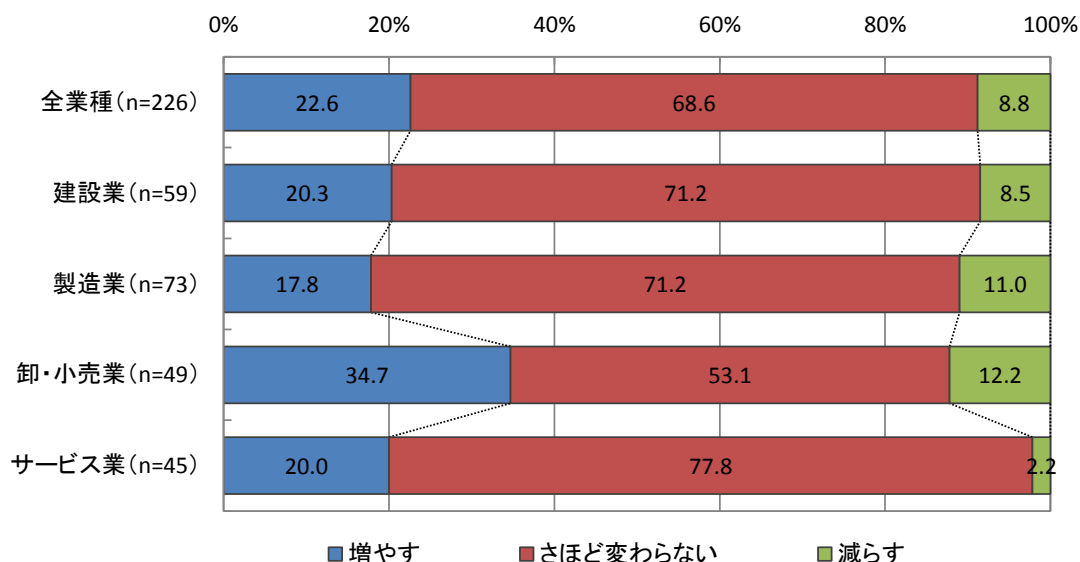
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 72.4%（前年比 1.3 ポイント上昇）、製造業が 63.2%（前年比 5.5 ポイント上昇）、卸・小売業が 55.6%（前年比 2.1 ポイント低下）、サービス業が 55.3%（前年比 4.2 ポイント上昇）と、卸・小売業で前年から低下となったものの、その他の 3 業種で上昇となった。

図表 25 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、前年冬季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業の割合が最も高く、68.6%であった。業種別にみると、卸・小売業で「増やす」の割合が他業種に比べて高くなっている。

図表 26 業種別 「冬季ボーナスを“支給する”企業の方針」



(2) 支給予定額

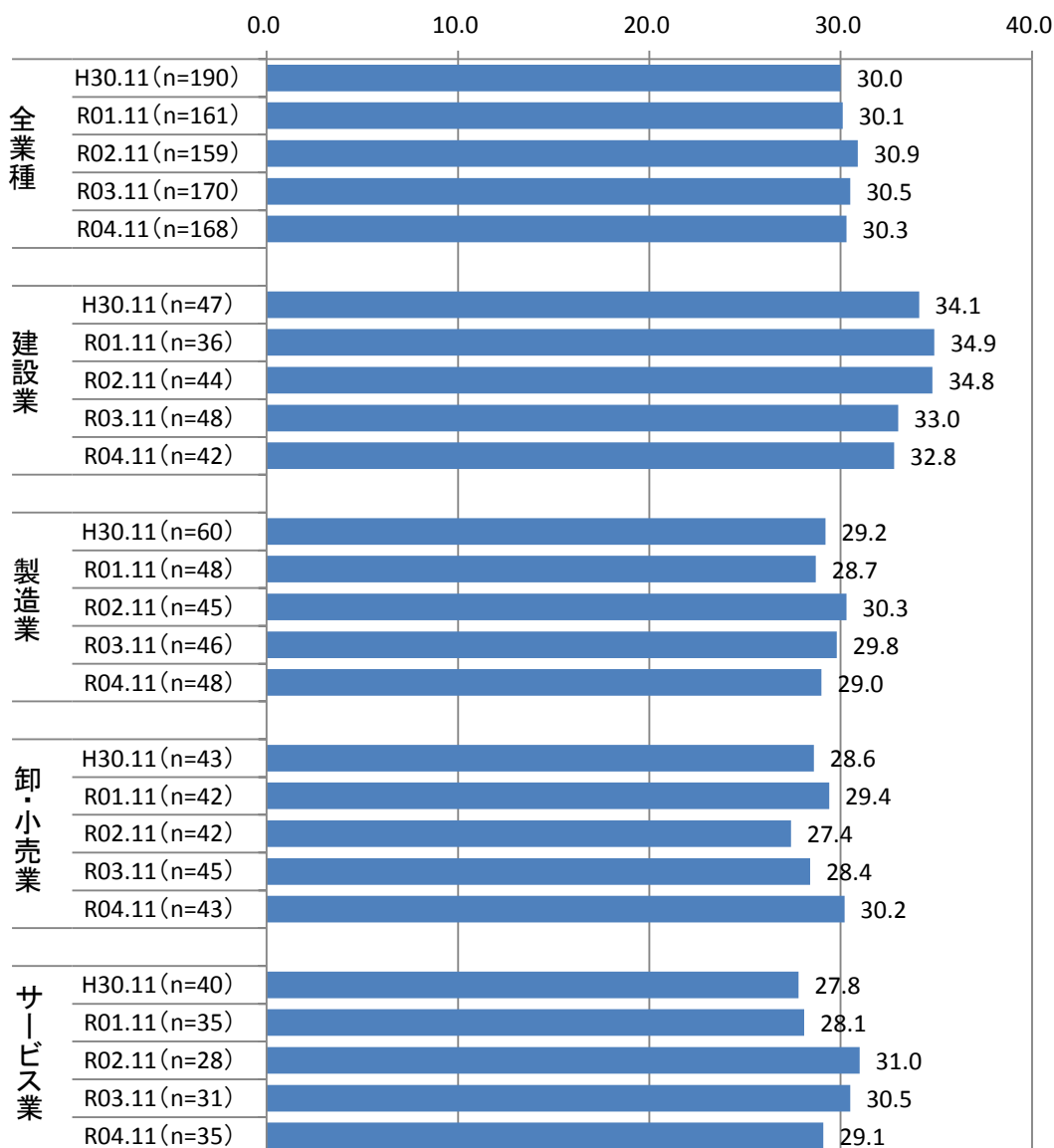
冬季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 30.3 万円となり、前年に比べ 0.2 万円の減少となった。業種別にみると、前年に比べ、卸・小売業で増加し、その他の 3 業種で減少した。平均支給予定額が最も高いのは建設業で 32.8 万円となり、最も低いのは製造業で 29.0 万円であった。

平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」の割合が最も高く、36.3%となっている。(図表 28)

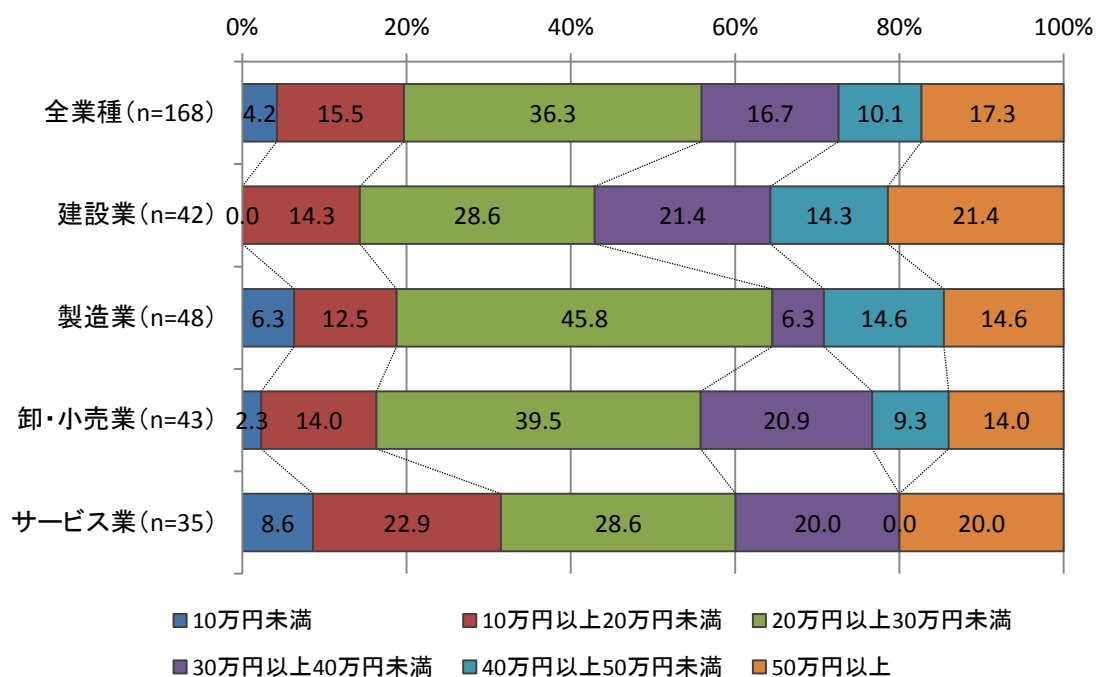
平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」の割合が最も高く、44.8%となっている。業種別にみると、卸・小売業では、2.0 カ月以上を支給する企業の割合が他の業種に比べて低くなっている。(図表 29)

図表 27 業種別「冬季ボーナスの平均支給予定額」の推移

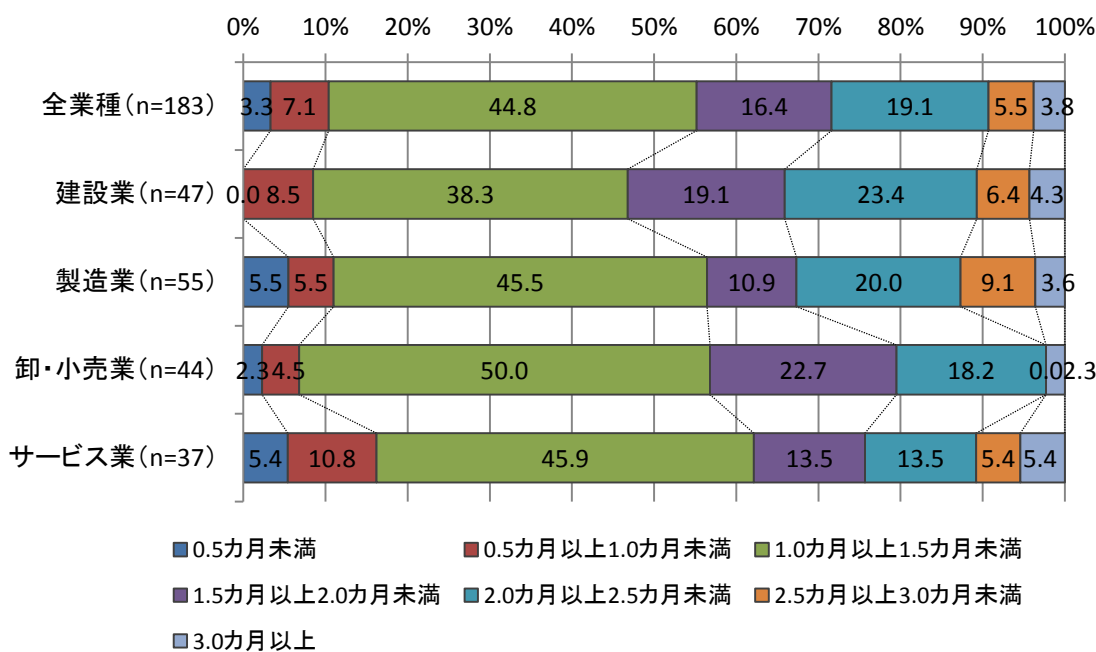
(万円)



図表 28 業種別「冬季ボーナス平均支給予定額」



図表 29 業種別「冬季ボーナス平均支給予定月数」



＜参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率＞

（サンプル数：社）

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	22	34	43	51	150
村山北部	20	31	17	16	84
最 上	21	18	10	17	66
置 賜	23	27	25	12	87
庄内田川	29	37	28	28	122
庄内飽海	33	32	31	36	132
合 計	148	179	154	160	641

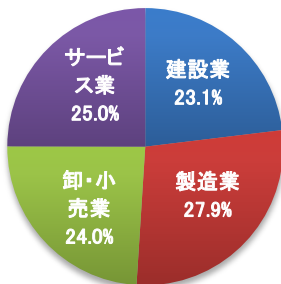
（回答数：社）

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	18	21	25	35	99
村山北部	13	22	11	7	53
最 上	16	10	7	5	38
置 賜	9	20	14	7	50
庄内田川	17	23	18	12	70
庄内飽海	14	21	15	19	69
合 計	87	117	90	85	379

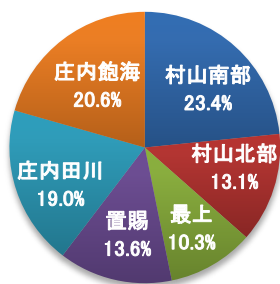
（回答率：％）

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	81.8	61.8	58.1	68.6	66.0
村山北部	65.0	71.0	64.7	43.8	63.1
最 上	76.2	55.6	70.0	29.4	57.6
置 賜	39.1	74.1	56.0	58.3	57.5
庄内田川	58.6	62.2	64.3	42.9	57.4
庄内飽海	42.4	65.6	48.4	52.8	52.3
合 計	58.8	65.4	58.4	53.1	59.1

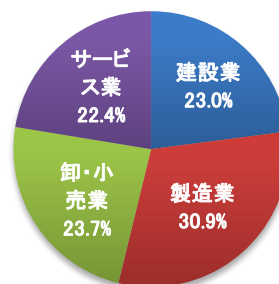
サンプル割合（業種別）



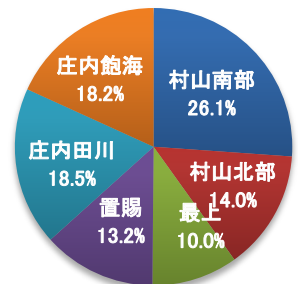
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



＜参考資料Ⅱ：調査の概要＞

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 4 年 11 月 1 日（火）～16 日（水）

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社 フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-2 1 荘銀山形ビル 8 F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp

URL : <https://www.fir.co.jp/>